

シビックセンター 探訪⑨

(最終回)

二戸市シビックセンター

☎25-5411

交流・情報発信の拠点

シビックセンター正面入り口を入ると、皆様を迎え入れる巨大な二ワトリとモナリザが置かれた空間があります。『ガレリア』と呼ばれるこの場所は、吹き抜けでアーケード状になっており、シビックセンターのシンボルともいえる場所です。ここは、天窓などから外光を取り入れながら間接照明を配置することで開放的な空間を演出しており、施設全体に明るさと一体感をもたらしています。また、ホール内の照明器具は、各種イベントに対応可能であり、これらのことが評価され、(社)照明学会より



ご利用お待ちしております

照明普及賞を受賞しています。当センターにお越しの際は、ぜひ照明の素晴らしさもご覧ください。

これまでこのコーナーで紹介してきた見所のほかにも、当センターには会議からダンスレッスンまで多用途に使用できるカルチャールームや、少人数での会議に適したミーティングルーム、サークルなどによる創作活動に向けた創作室、さらには茶道用の電気炉や水屋を備えた和室などがあり、多目的に利用できます。

これからも、市民の交流と連携の場として、そして二戸市の情報発信の拠点施設として充実したサービスの提供に努めてまいりますので、お気軽にご利用ください。

こみゅにTeaたいむ

9月号

草の根コミュニティ大学

県は人口減少、少子高齢化などにより集落機能の低下や衰退が懸念される中、地域課題解決に向け、地域住民、県立大学および市の連携のもと、集落の実態調査などを行う「草の根コミュニティ大学」を浄法寺の馬洗場地区で開きました。

馬洗場・手倉森・下沢地区は、葉たばこの栽培が盛んな地域であり、近年ではＵターンにより若者が地域にもどりコミュニティ活動も活発に行われています。しかし、現在使用している地域公民館は築30年以上と老朽化が進み、新たなコミュニティセンターの建設が求められています。そこで「公民館の建設による集落活動の活性化」をテーマとし、昨年の12月から3回にわたり県立大学総合政策部の倉原宗孝准教授のもと大勢の地域住民が参加し、ワークショップなどを行いました。

「若者もお年寄りも葉たばこに携わっているため世代間で話が合う」「近所づきあいがよい」「自然が多く夜空がきれい」などといった地域

のよいところや「若い人たちが集まる場所が欲しい」「地域の行事が減った」などの意見も出されました。

また、最終日には地域に伝わる干しもち、そば、へっちょこだんごなどの伝統的な料理を食べながら、交流も行われました。

多くの地域住民が参加し、自分たちの地域を見つめ直したことにより、地域が抱える課題や良いところなどが明らかになりました。そして、普段意識しないで暮らしている自分たちの地域について、地元の住民には分からなかった地域の良さが再発見され、誇りを持てたことが大きな収穫となりました。



修了証書を受け取る平山盛悦代表(写真右)

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線653)まで